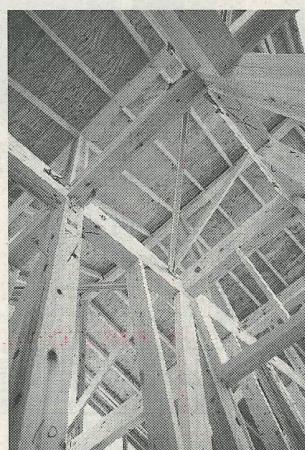


全棟で国産材を採用

ゼロ・ヨーポレーション



宮崎県産の杉双子柱仕様

木造戸建て住宅を主力とする地場ビルダー大手のゼロ・ヨーポレーション（京都市、金城一守社長）は、全棟国産材使用を宣言し、積極的な国産材活用に取り組んでいる。現在、管柱、土台などで杉、桧構造材を標準仕様としているほか、間柱についても杉フインガージョイント材仕様としている。同社では「国産材を活用することで、日本の山を育て、山を守り、CO₂削減に貢献することが使命」と語り、全社を挙げて森林・林業、木材に関する研修も実施している。

管柱に双子柱を採用

同社は京都を地場とする木造軸組住宅会社で、関西圏で分譲住宅や注文住宅を主力に、5年前からマンション分譲も開始しており、13年3月期見通しは売上高200億円弱、供給棟数は500戸。

同社は12年1月から、戸建て住宅の管柱及び2階建て通柱をW

ウッド小断面構造用集成材から、宮崎県産杉双子柱に全面切り替え、さらに昨年末から米ツガ注入土台から桧土台に切り替えた。構造材以外でも、間柱はWウッドKD材から杉

フィンガージョイント

材に転換している。

国産材導入は、宮崎

県の国産材製材事業会社に依存してよいのか、特に東日本大震災以後、価格、コスト、供給に関し、こうした思いを強くした。国を挙げての国産材、地域材活用の動きも活発になつており、本格的に国産材導入についての検討を開始した」（工務本部）と語る。

「製品精度、プレカット工場の対応力などから、2年近く検討を続け、精度や供給安定性、「コストなどを総合して、最終的に杉双子

丸太から125ミリ角粗挽き材を製材、これを半割りラミナに加工して天然乾燥、低温人工乾燥させ、木材の反り

をブレーナーで修正加工し、積層接着、養生

を経て105ミリ角に仕上げる。JASに基づく製品強度はE65F2

25。「Wウッド集成

柱を管柱に標準採用することを決めた。今年に入り外材由来の各種構造材価格が急騰して

おり、当社の懸念が現実になつた」（同）と指摘する。

宮崎県産杉双子柱は丸太から125ミリ角粗挽き材を製材、これを半割りラミナに加工して天然乾燥、低温人工乾燥させ、木材の反り

をブレーナーで修正加工し、積層接着、養生

を経て105ミリ角に仕上げる。JASに基づく製品強度はE65F2

25。「Wウッド集成

柱を管柱に標準採用することを決めた。今年に入り外材由来の各種構造材価格が急騰して

おり、当社の懸念が現実になつた」（同）と指摘する。

宮崎県産杉双子柱は丸太から125ミリ角粗挽き材を製材、これを半割りラミナに加工して天然乾燥、低温人工乾燥させ、木材の反り

をブレーナーで修正加工し、積層接着、養生

を経て105ミリ角に仕上げる。JASに基づく製品強度はE65F2

25。「Wウッド集成

宮城県角田市に提携工場

復興需要に対応

勝田産業

木造軸組工法向けパネル製作大手の勝田産業（東京都、勝田優社長）は、宮城県角田市にあるプレハブ部材工場と提携し、東北での災害復興住宅などのパネル供給していく体制を構築した。東日本大震災の被災地区では職人不足が予想されたため、パネル化を提案した。

震災の被災地区では職人不足が深刻化してお

り、被災地では職人不足が予想されたため、パネル化を提案した。

工場間の製作分担を行

い、受注の波への対応力を高めてきた。

被災地では職人不足が予想されたため、パネル化を提案した。

工場間の製作分担を行

い、受注の波への対応力を高めてきた。

被災地では職人不足が予想されたため、パネル化を提案した。

パネル製作のネットワークを活用するなど、工場間の製作分担を行い、受注の波への対応力を高めてきた。

被災地では職人不足が予想されたため、パネル化を提案した。

工場間の製作分担を行

い、受注の波への対応力を高めてきた。

被災地では職人不足が予想されたため、パネル化を提案した。

工場間の製作分担を行

い、受注の波への対応力を高めてきた。

柱を管柱に標準採用することを決めた。今年に入り外材由来の各種構造材価格が急騰して

おり、当社の懸念が現実になつた」（同）と指摘する。

柱を管柱に標準採用することを決めた。今年に入り外材由来の各種構造材価格が急騰して

おり、当社の懸念が現実になつた」（同）と指摘する。

柱を管柱に標準採用することを決めた。今年に入り外材由来の各種構造材価格が急騰して

おり、当社の懸念が現実になつた」（同）と指摘する。

柱を管柱に標準採用することを決めた。今年に入り外材由来の各種構造材価格が急騰して

おり、当社の懸念が現実になつた」（同）と指摘する。

柱を管柱に標準採用することを決めた。今年に入り外材由来の各種構造材価格が急騰して

おり、当社の懸念が現実になつた」（同）と指摘する。